

長門市立日置中学校「いじめ防止等対策基本方針」

平成30年2月1日策定
令和3年4月8日改訂

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあり、絶対に許されない行為である。

本校においても「いじめはどの子どもにも、いつでも起こりうる」という認識の下、これまで推進してきた「未然防止」「早期発見」「早期対応」の取組の視点に「重大事態への対応」を加え、取組の更なる充実を図る必要がある。また、地域との協働やいじめ対策委員会を中核とする組織的対応の他、外部専門家や関係機関との連携を一層強化することにより、本校におけるいじめ防止等の対策が体系的・計画的かつ具体的に行われるよう、「いじめ防止対策推進法」（以下「法」という。）の趣旨を踏まえ、国の「いじめの防止等のための基本的な方針」及び「山口県いじめ防止基本方針」「長門市いじめの防止等対策基本方針」を参酌して「長門市立日置中学校いじめ防止等対策基本方針」を定める。

I いじめ防止等の対策の基本方針

1 いじめとは

いじめの定義

いじめとは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍する等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（法第2条）

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、特定の教職員のみによることなく、いじめ対策委員会が中心となり、表面的・形式的にならないよう、いじめられた生徒の立場に立って行う。

具体的ないじめの態様は、以下のようなものがある。

- ◇ 冷やかしかからかい、いじり、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ◇ 仲間はずれ、集団による無視をされる
- ◇ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ◇ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ◇ 金品をたかられる
- ◇ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ◇ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ◇ インターネット上で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等
- ◇ けんかやふざけ合いに見せかけて、苦痛を与える

これらの「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが必要なものや、生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。これらについては、いじめた生徒への教育的な配慮やいじめられた生徒の意向への配慮の上、早期に警察に相談・通報し、連携した対応を取る。

2 いじめの未然防止

児童等は、いじめを行ってはならない。（法第4条）

いじめを根絶するためには、「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」との認識の下、未然防止の観点から、すべての生徒を対象とした人権教育や道徳教育、情報モラル教育等、健全育成に係る取組を総合的かつ効果的に推進し、家庭や地域、関係機関等との連携・協働の下、豊かな人間性、確かな学力等の生きる力を育む教育活動を行う。

3 いじめの早期発見・早期対応

いじめは構造的に見えにくい一面があることから、生徒の些細な変容について、関わるすべての教職員が状況等を共有し、「背景にいじめがあるのではないか」との危機意識をもち、具体的ないじめの態様を軽視したり、隠したりすることなく、早期のいじめとしての認知に努める。

いじめを認知した場合は、迅速かつ適切、丁寧な指導・支援を行い、生徒にとって、一刻も早く安心・安全な学校生活となるよう、必要に応じ、関係機関や専門家等と連携しながら、いじめが確実に解決されるまで、組織による粘り強い対応を行い、また、解決後もきめ細かく見守りを行う。

いじめの発見・通報を受けた場合には、担任や教科担当、部活動顧問等、担当教職員が一人で事案を抱え込むことなく、学校として情報の共有を基に、いじめ対策委員会を中核として、全校体制でいじめの解決に向けて取り組む。

4 いじめの解消

(1) 「いじめが解消している」とは次の2つの要件が満たされていることが、様々な経過観察により明白な場合である。

- ①いじめに係る行為がないことが、少なくとも3ヶ月以上継続していること。
- ②被害生徒が心身の苦痛を感じなくなっていること。

(2) 「いじめが解消している」状態に至った場合でも、いじめの再発に備え、日常的な経過観察をする必要がある。

5 家庭や地域との連携

生徒を見守り、健やかな成長を促すとともに、より多くの大人が子どもとしっかりと関わり、悩みや相談を受け止めるなどの体制を構築するため、相談窓口等の周知、PTAや学校運営協議会委員等と連携しながら組織的な対応を行う。

6 関係機関等との連携

いじめの問題の対応においては、関係の児童生徒・保護者間での解決を図るだけでなく、事案によっては、関係機関等と速やかに適切な連携を図る。

平素から、警察、児童相談所、地方法務局、市教委等と定期的に連絡・協議する機会を設けるなど、情報共有体制の更なる充実に努める。

特に法務局の「子どもの人権110番」、やまぐち総合教育支援センターの「やまぐち子どもSOSダイヤル」などの窓口を生徒や保護者へ周知する。

II いじめ防止等の対策の取組

1 いじめの防止等のための組織

本校におけるいじめ防止等の対策を計画的・組織的に行うため、取組を統括する組織として、「いじめ対策委員会」を置くとともに、既存の「生徒指導部会」を実働的な組織として連携する。「いじめ対策委員会」は生徒指導部会の各取組に対し、評価・検証等を行い、恒常的な改善を図る。

(1) いじめ対策委員会

年間2回の全委員による会議、学期ごとの校内委員による取組状況検討会議、事案の発生時に必要に応じた委員による緊急会議等

<構成>

管理職、保護者代表、学校運営協議会委員、生徒指導主任、教育相談担当、学年主任、養護教諭

※スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー（必要に応じて連携・協働する体制を構築する）

<役割>

- ◇ 学校基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・改善
- ◇ いじめの相談・通報の窓口
- ◇ いじめの疑いに係る情報があった時の緊急会議の開催、情報の迅速な共有、関係のある生徒へ

の事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携
◇学校評価を通じて、いじめの防止等の対策に関する取組評価の実施

○ 生徒指導部会

毎週の定例会議、事案発生時の緊急会議等

<構成>

生徒指導主任、生徒指導担当教員、養護教諭

※ 必要に応じ、教育相談担当、学年主任、当該学級担任・部活動顧問等を加える。

<役割>

- ◇ いじめの疑いに関する情報や生徒の問題行動などに係る情報の収集、記録、共有
- ◇ いじめの疑いに係る情報があった時の緊急会議の開催、情報の迅速な共有、関係のある生徒への事実関係の聴取、関係児童生徒への生徒指導 等
- ◇ 学校行事、校内研修等の企画・実施
- ◇ アンケート調査の実施・結果の分析・対策の検討

2 いじめの防止等のために実施する具体的な取組

本校におけるいじめ防止等の取組が体系的・計画的かつ具体的に行われるよう、「いじめ対策委員会」を中核とする「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた実効的な対策を行う。

(1) **未然防止** (いじめの予防)

①豊かな心を育む教育の推進

～ 日置みずゞ学園の小中3校と家庭・地域が一体となった『あいさつ運動』の推進

○いじめは、著しく人権を侵害する行為につながるおそれがあり、未然防止に努めることが大切である。互いの人格を尊重した態度や言動ができるよう、組織的・計画的に人権教育に取り組む。

○生徒の一人ひとりの夢の実現に向けて、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の核となる豊かな人間性を育むため、教育活動全体を通して、「みずゞさんのまなざしと感性」を基調とした心の教育を充実させる。

○いじめの未然防止に向け、生徒の規範意識を醸成するため、「きまり」「節度」「礼儀」を重視した小中一貫の取組を行う。

○社会貢献の在り方、自他の権利の尊重、人としての暮らし方やふるまい方等を学ぶため、地域清掃活動等のボランティア活動を充実する。

②生徒指導・教育相談体制の充実・強化

○教職員の資質能力の向上に向け、スクールカウンセラー等と連携しながら、積極的に事例研究や教育相談等のいじめ防止等に向けた校内教職員研修を開催する。

○すべての児童生徒の能力を最大限に発揮できるよう、開発的な援助を行う教育相談体制の充実に一層努めるとともに、県教委作成の「F i t」(学校適応感を測る客観テスト)を活用するなどの取組を行い、児童生徒理解に努める。

○小中学校の切れ目のない支援体制を構築するため、みずゞ学園内の連携を促進し、学校相互の情報共有に努めるとともに、一貫したいじめの防止等の対策に取り組む。

③教育活動全体を通じた取組

○自ら考え、判断し、表現する学習活動を通して学び合い、学習内容を深めていくことができる、授業づくりに努める。

○すべての教育活動を通じて道徳教育を行い、生徒の社会性や規範意識等の豊かな心を育み、一人ひとりの健全な成長が促されるよう、取組を進める。

○生徒が、他者との協力の大切さを感じ、成し遂げる喜びを体験していくことができるよう、学級活動をはじめ、学校行事、生徒会活動等において、内容・方法等を工夫改善する。また、い

じめの防止・解決に向けた生徒の主体的な取組を支援する。

- 学校行事やボランティア活動、AFPY（県独自の体験学習法）を活用した体験活動等に重点的に取り組み、思いやりの心や社会性を育む。
- 部活動においては、顧問教員等の指導の下、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、課題を解決するなどの自己指導能力の育成を図る。

④家庭・地域との連携

- いじめを解決していくためには、保護者との緊密な連携が必要であるため、日頃から信頼関係づくりに努める。
- コミュニティ・スクールや地域協育ネットをいじめ問題対策の点からも推し進める。PTA、学校運営協議会委員、青少年健全育成協議会等の関係団体や警察等の関係機関と協議する機会を設け、いじめの問題の解決に向けて地域ぐるみで取り組む。
- 生徒の校外生活について、日頃から地域の相談窓口や関係機関とも連携を図り、学校を中心とした地域の情報ネットワークの充実・強化に努める。
- スマートフォンやテレビゲームなどの情報機器との付き合い方を家族とともに考える「日置みず学園ノーメディアデー」の実施

(2) **早期発見**（把握しにくいいじめの発見）

①校内指導体制の確立

- 「背景にいじめがあるのではないか」という意識を常にもちながら、保護者と緊密に連携し、定期アンケート、各学期の個人面談に取り組むとともに、担任・副担任を中心に全教職員できめ細かく生徒を見守る体制をつくる。
- 開かれた保健室・相談しやすい教育相談室づくりの取組、教育相談箱の設置等により、様々な手段で生徒の不安や悩みをしっかりと受け止める。

②家庭・地域との連携

- 学校に寄せられる保護者や地域からの意見を課題把握に生かし、共に考え、生徒のためにいじめを解決していく姿勢を明確に示す。

(3) **早期対応**（現に起こっているいじめへの対応）

①早期対応のための本校の体制

- いじめを認知した場合は、担当教職員が抱え込むことなく、速やかに情報の共有と事実関係（時・場所・人・態様等）の調査を行い、客観的な事実を基に、保護者と緊密に連携し、いじめ対策委員会を中核として、全校体制で解決に向けて取り組む。

②いじめへの対応

- いじめられている生徒を守り抜くとともに、いじている生徒に対しては、懲戒も含め毅然とした姿勢で対応する。
- 学校内にいじめは許されないという雰囲気づくりに努めるとともに、周りではやしたてる生徒や、見て見ぬふりをする生徒に対しても、いじめを制止するか、あるいは教職員に相談するよう指導する。
- いじめられている生徒の心のケア、いじている生徒の内省を促す支援等、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部専門機関との連携を図る。
- インターネットや携帯電話を通じて行われるいじめに対しては、いじめを受けた生徒からの申し出を精査する過程で、書き込み等を印刷又は写真撮影しておくなど、記録を取る。
- いじめられている生徒の保護者との面談の時間を速やかに設定し、教職員が保護者と一緒に考え、生徒のためにいじめを解決していく。
- いじている生徒の保護者へは、「いじめは人間として、絶対に許されない」との認識の下、いじめの解消に向け取り組むことを伝えるとともに、生徒のよりよい成長のために協力を依頼する。

③地域・関係機関との連携

○日頃から開かれた学校づくりに努め、いじめの解決に当たっては、地域の積極的な協力を得る。

○犯罪行為として取り扱われるべきと認められる場合は、「やまぐち児童生徒サポートライン」(平成16年4月施行)による「学校から警察への連絡に関するガイドライン」(平成22年11月策定)に基づき、教育的配慮を行いながら、警察と連携した対応を図る。

(4) 指導上の配慮が必要な児童生徒への対応

特に配慮が必要な児童生徒については、日常的に保護者との連携し、周囲の生徒も含めて必要な指導を組織的に行う。

- ① 発達障害を含む障害のある生徒
- ② 海外から帰国した生徒や外国人の生徒
- ③ 性同一性障害や性的指向・性自認に係る生徒
- ④ 東日本大震災等により避難している被災生徒

3 重大事態への対応

重大事態とは

○ いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき(児童生徒が自殺を企図した場合等)

○ いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき(年間30日を目安とするが、児童生徒が一定期間連続して欠席しているような場合は学校又は市教委の判断で重大事態と認識する。)(法第28条)

※ 児童生徒やその保護者からいじめられて重大事態に至ったという申し立てがあったときは、学校は重大事態が発生したものとして真摯に対応する。

いじめの根絶に向けた未然防止の取組が重要であるが、暴力行為や不登校がいじめによる重大事態に当たると判断した場合、速やかに市教委に報告するとともに、「いじめ対策委員会」を中核として、学識経験者や臨床心理士等の外部専門家も加え調査委員会を組織し、指導助言を得ながら、前掲「早期対応」と同様、いじめられている生徒の心身の安全の確保を最優先に、いじめの解決に向けた調査及び取組を行う。

なお、市教委が設置する専門家等の第三者からなる「いじめ問題調査委員会」による調査を行う場合もある。

Ⅲ 家庭・地域・関係機関との連携

いじめの問題の解決に向けては、家庭・地域との緊密な連携・協働が重要であり、学校を家庭・地域に開かれたものにしていくため、学校運営協議会内に「いじめ対策部会」を設置するとともに、青少年健全育成協議会等の地域の関係団体にも協力を依頼し、学校基本方針の共通理解を図りながら、地域ぐるみで情報交換の促進、連携の強化等に努める。

また、児童生徒・保護者の不安や悩み等を受け止めるとともに、地域とも協働を図るため、本校の相談窓口や関係機関等の相談窓口の周知を図り、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門的な相談にも対応できる体制を整備する。

(1) 本校の相談窓口

長門市立日置中学校 代 表 0837-37-2036

(2) 関係機関等の相談窓口

○長門市教育委員会内 いじめ相談電話	22-3515
○長門市教育支援センター	22-3542
○ こどもの人権110番 (山口地方法務局)	0120-007-110
○ いじめ110番 (やまぐち総合教育支援センター)	083-987-1202
○ サイバー犯罪対策室 (山口県警本部)	083-922-8983
○ ヤングテレホン・やまぐち (山口県警本部)	0120-49-5150
○ ふれあい総合テレホン (やまぐち総合教育支援センター)	083-987-1240
○ 山口県教育庁行政相談室 (教育庁教育政策課)	083-933-4531
○ ふれあいメール (やまぐち総合教育支援センター)	soudan@center.ysn21.jp